

# O E C U N E W S

大阪電気通信大学 学報

2017年 1月5日発行  
発行：学校法人 大阪電気通信大学  
〒572-8530 寝屋川市初町18-8  
TEL 072-824-1131(代)  
<http://www.osakac.ac.jp>

329号



特集1

## 東京ゲームショウ2016 京都国際マンガ・アニメフェア2016 室池いきもの王国

特集2

## キャンパスを明るく彩る秋のイベント満載!! 第56回大学祭／ホームカミングデー／テクノフェアinねやがわ／なわフェス'16

**OECU Club & Circle** 女子バスケットボール部 **念願の2部リーグ昇格!**

・NEWS & TOPICS ・受賞報告 ・ベリーベリープロジェクト近況報告 ・国際交流 ・人事異動



# 全力自由化宣言

「全力でやりたい」という意欲に、ブレーキはいらない。  
 施設も設備も、先生の支えもなければ、  
 その人は、もっと成長できたはずの自分に、会えないまま終わる。

「全力」を「自由」に出せる環境かどうか。  
 それが成長の分岐点。

これまでも制限なく技術を磨ける環境づくりに  
 取り組んできた大阪電気通信大学では、  
 2018年4月の新学科開設<sup>※</sup>に伴い、  
 さらなる自由化を推進します。

全力を伸ばすには、全力を出しつづけること。  
 学生一人ひとりの力を信じ、  
 「全力」をもっと「自由」に発揮できる舞台を。

全力を出せる舞台がある。  
**OECU** 大阪電気通信大学  
Osaka Electro-Communication University

## 2018年4月、新学科スタート!

新設 工学部 建築学科<sup>®</sup>
総合情報学部 ゲーム&メディア学科<sup>®</sup>
再編 総合情報学部 デジタルゲーム学科<sup>®</sup>

※2017年1月現在、設置構想中であり、名称及び計画内容は変更になる場合があります。

詳しくは本学 Web サイトで



学校法人 大阪電気通信大学

### 平成29年 新年のご挨拶

学校法人 大阪電気通信大学  
 理事長 成瀬淳

丁酉の新しい歳の初めにあたり皆様にご挨拶申し上げます。そして本年が皆様にとって幸多き年でありますよう心よりお祈り申し上げます。

本年は学園の飛躍を期して作成した「第1次5カ年計画」をいよいよ実行に移す記念すべき年となります。この計画の趣旨は老朽化したキャンパスの刷新、工学部建築学科と総合情報学部ゲーム&メディア学科の新設、総合情報学部デジタルゲーム学科の再編(※)などを通して、学生・生徒の皆さんが全力を出せる舞台を提供し、本学園のミッションである「人間力と技術力を兼ね備えた人材の育成」に更に集中し注力して行くことにあります。

さて、本学園の伝統である実学教育は生徒学生諸君ならびに教職員の風土の中に定着しており、また多くの卒業生の方々の、社会での実直かつ堅実な仕事ぶりや社会への高い貢献という形で顕在化しています。どのようにしてこのような卓越した風土が本学園に醸成されてきたのかについて知りたいと思っていたところ、先日本学の草創に関わった内田作蔵という偉人についての情報に接しました。

内田作蔵は1899年に鹿児島県出水市の貧しい農家に生まれました。小学校時代から神童ぶりを発揮し、常に生徒代表を務め、15歳の時に受けた準教員の試験で年少合格者として新聞に出たほどでした。結局教員への途は諦め、九州全域の郵便局及び電信局要員を養成する通信生養成所で電報や無線技術に接し、更に高度な教育を受けるために東京の学校へ進学。卒業後は通信技師として船に乗り込み、ブラジルやアメリカに渡り見聞を広げました。帰国後、経済・社会・政治、更には先進企業の事例についても学べる職業人向けの上級学校に進学するという徹底した実学に基づく勉学に励みました。資格取得の重要性を強調したのもこのころでした。25歳の時に月刊誌「無線の友」を創刊し、1927年28歳で大阪無線電信電話学校(のちに大阪電気通信大学高等学校に統合)

を設立し校長に就任しました。1939年、40歳の時に同校卒業生の同志を集めて大阪無線学会を設立したところ盛況を極め、期せずして学校創立の声が起こり、1941年の東亜電気通信工学校(本学園の起源)の設立に至りました。学生生徒の心身の鍛錬にも力を入れ、野球部、音楽、テニス部などを設けたということです。「卒業生の就職を考えることが大切で、これこそ学校の発展のための肝要事である」という部分は我々が現在最重要課題の一つとして取り上げている内容にも合致します。

1944年故郷の鹿児島に疎開したのを機に勇退し、その後も郷里で商業科と電子科を置いた出水学園高等学校を設置するなど、生涯にわたって世に必要とされる技術者を育成する学校の設立に尽力したのでした。「産む事は私以外にはない」というのが自分の理念であるとして、「他人の成し得ないことをやる」ために「独自の方法を探った」といいます。このようにイノベーションの概念に通じる使命感に燃えた真の意味での教育者だったと思います。

自伝的著作の「無線のあゆみ」に、「一生を無線教育に捧げようと決心し理想教育に邁進した結果、今では大阪電気通信大学として後世に残るであろうし、私の念願も達成しました」とあり、続けて「人間性の回復、格差をなくし日常生活に不安なく社会公共の奉仕し得る体制を作ることが急務だ」と1974年12月に結んでいます。内田作蔵、75歳の時でした。

私たちの学園が置かれている現状を鑑み、内田作蔵の「心に関する教訓」(やさしい心、ゆたかな心、なごやかな心、愛する心、感謝の心、奉仕の心)を肝に銘じつつ今年も本学園の経営に専念して参りたいと思いを新たにしました。

本年も全教職員が建学の精神に則り、一丸となって学園運営に邁進して参ります。引き続き皆様のご理解と温かいご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

(※)2017年1月現在、設置構想中であり、名称及び計画内容は変更になる場合があります。



## 話題のVRゲームなど、ゲーム界のビッグイベントに学生作品を発信!



10年連続出展

## 東京ゲームショー2016

9月15日から18日に幕張メッセで開催された「東京ゲームショー2016」に総合情報学部デジタルゲーム学科が出展しました。

「東京ゲームショー」は今年で20周年を迎える世界最大級のゲーム見本市で、デジタルゲーム学科は2007年から10年連続の出展となります。

出展作品は多くの学生が応募した中から数か

月にわたる学内コンペを経て選出。ヘッドマウントディスプレイ「HTC Vive」を使用したVRゲームをはじめ、スマートフォンアプリゲームなど、今年も力作が多数揃いました。

4日間を通じ、ゲーム業界の方々をはじめとした多くの来場者に自分たちが制作したゲームを体験してもらい、学生たちにとって大変貴重な経験となりました。

### 学生インタビュー

① デジタルゲーム学科2年生 福永和樹さん  
「選考魔剣士 ヒロト」制作グループリーダー  
「スマートフォンアプリゲーム」の制作にあたり、スマホでゲームをするタイミングを考え、ターゲットを「電車の中でゲームをする人」に設定。短時間でクリアできるように、操作はスマホ画面に指で触れる、難易度の2つに限定し分かりやすくしました。憧れの東京ゲームショーに出展し、ゲーム業界の方々にプレイしていただき、その場でコメントをいただくというリアルタイムのやり取りに感動しました。今年「授業」枠からの出展でしたが、来年はコンペに参加することになりました。もっとよい作品が出せるよう力をつけ、同じ目標を持った仲間とチームを組んで、来年も参加できるよう頑張りたいです。

② デジタルゲーム学科4年生 高山大輝さん  
「THE GOBYRINTH」制作全般担当  
ヘッドマウントディスプレイの装着により、仮想現実に入り込んだような体験をすることができ、VRゲームを出展しました。VRにおいては、UI(操作するときの画面表示、メニューの言葉等の表現や操作感)が視界を塞いだり、障害物にならぬように、周りの風景になじませるなどの工夫が必要です。使いやすいういゲームにするためには実際にプレイして微調整を重ねる必要がありますが、VRの機器自体はまだあまり普及していないので、デバッグ(欠陥を調べて取り除く作業)に苦労しました。今回多くの方にプレイしていただき、よい反応をいただく一方で、様々な課題も明らかになりました。これらを改善し、在学中に商品としてリリースできるくらいのクオリティにすることが今後の目標です。

③ 大阪電気通信大学高等学校 電子工業科理数コース2年生 濱田直弥さん  
([Barrier])  
まさか高校生のうちに東京ゲームショーに出展できるなんて思っていなかったため、代表に選ばれて驚いたと同時にとても嬉しかったです。「Barrier」は、スマートフォン端末を傾げることで自機を移動させ、タッチパネルをスワイプしてバリアを移動し、敵機の弾を跳ね返すシューティングゲームです。仲間内でプレイしたときは高得点も出ていたのですが、先輩方からは難易度が高いといわれ、初めて遊ぶ方には難しかったのかもしれない。今回頂いた感想やアドバイスをいかして、改良していきたいと思っています。

※大阪電気通信大学高等学校の情報処理部では、C言語を使用したオリジナルゲームを制作しており、毎年選抜された1作品を本学のブースに展示しています。

### 「東京ゲームショー2016」出展作品とメンバー

- THE GOBYRINTH 長江剛、高山大輝、石丸光希、川枝直輝、河野宗一郎、福永和樹、大島桜帆、小川大智、軸原弘貴
- BoX-ボクローサー 石塚祐輔、緒方森、神吉拓貴、黒井直弥、小西雅
- 鋼鉄の流星群 川端友也、森下樹、藤原健太、岩切周平
- アタックガールズ 玉置匠、王元成、羽月蓮、真鍋和也、森一基
- ペンギン脱出大作戦! 福永和樹、長岡利歩、伊藤正哉、橋本将太
- Connect
- 選考魔剣士 ヒロト
- センス・オブ・ワンダーナイト2016プレゼンテーション「アドバンスド摩訶大将棋」

デジタルゲーム学科 高見研究室  
2年次「プロジェクト実習2」授業成果 イラストレーション作品  
大阪電気通信大学高等学校 生徒作品の参考展示

### 高見研究室「アドバンスド摩訶大将棋」が「センス・オブ・ワンダーナイト2016」ファイナリストに!

「東京ゲームショー2016」の4つの国際企画のうちの一つ、実験的で創造的なゲーム発表会「センス・オブ・ワンダーナイト2016」に、デジタルゲーム学科高見研究室(高見友幸教授)の「アドバンスド摩訶大将棋」が日本からは唯一最終8作品に選出され、プレゼンテーションを行いました。「摩訶大将棋」は平安時代後期の大型将棋を起源とする日本独自の将棋で、ボードゲームであると同時に、古代の合戦や仏教の世界観、陰陽道を、絶妙のシナリオをもって表現しています。惜しくも受賞は逃しましたが、古文書を読み解き、デジタルゲームとして復刻された同作に対し、ゲームが持つ無限の可能性を示したと賞賛の声が上がりました。



3年連続出展

## 京都国際マンガ・アニメフェア2016

総合情報学部デジタルゲーム学科は、9月17日、18日の2日間、みやこめっせ(京都市勤業館)で開催された「京都国際マンガ・アニメフェア2016」(以下、京まふ)に3年連続で出展しました。

当日は、デジタルゲーム学科の学生作品の展示をはじめ、電ch!(でんちゃん)プロジェクト初の本格SFアクション短編映画「CYBERDIVE」の上映や、「CG合成体験イベント」、四條畷市との官学連携プロジェクト「室池いきもの王国」

の展示などを実施しました。また、OSAKAを舞台としたゲームアプリ「コトノハノセキ」のAndroid版配信に先駆けての試遊も行われ、17日にはキャラクターボイスを担当した人気声優水瀬いのりさんがブースを訪れ、直筆サインをいただきました。

「CYBERDIVE」上映後、来場者の方は「学生が制作したものとは思えない」と、そのクオリティの高さに驚かれていました。また、CG合成体験では多くの来場者がしっかり決めポーズ

をとるなど大いに楽しまれ、CG合成した画像は缶バッジにてお持ち帰りいただきました。

京まふは西日本最大級のマンガ・アニメコンテツの総合見本市で、今年度の来場者数は2日間合計で約44,000人。また、今年は過去最大となる68企業・団体が出展し、最新作品をPRしました。このほかにも、人気マンガ・アニメ作品と京都企業がコラボした限定グッズを販売するなどの試みもあり、国内外から集まった多くのアニメファンで盛り上がりました。



## 「CYBERDIVE」上映やCG合成体験、アプリの試遊など盛りだくさん!

### 四條畷市との官学連携プロジェクト

## 「室池いきもの王国」スタート!

11月13日、四條畷市の緑の文化園・むろいけ園地で「室池いきもの王国」が始まりました。

「室池いきもの王国」は、本学と四條畷市の官学連携プロジェクトの第1弾で、大阪府内有数の森林浴スポットである室池周辺を巡りながらクイズやカードゲームを楽しむという企画です。「電ch!(でんちゃん)」に所属する学生や教職員らがその知識やノウハウを活か

しながらカードゲームやアプリ、動画を制作しています。

初日の13日、むろいけ園地は、天候にも恵まれた皆さんの家族連れやハイキンググループで賑わいました。イベントに参加していたのは小学校低学年の子どもたちとその保護者の方々を中心。皆さんは散策を楽しみながら各ポイントに設置されたヒントを参考にクイズに挑戦していました。





第56回大学祭



「Harmony!!」をテーマに  
学生たちが一致団結!

11月5日、6日、寝屋川キャンパスで「第56回大学祭」を開催しました。

一致や連結を意味する「Harmony!!」というテーマのもと、大学祭実行委員会を中心に、学生らが一致団結してイベントを盛り上げました。

オープニングには、来賓の大石利光学長、伊與田功学生部長、福田武友電学生会長、竹田治英クラブ同窓会会長、辻颯斗第56期常任自治委員会委員長による挨拶が行われ、続いて森本舜第56期大学祭実行委員会委員長が開会宣言を行いました。

2日間にわたり、アニメや映画の主題歌で話題の「CHiCO with HoneyWorks」さんによるスペシャルライブや、「ギャロップ」さん、「プリマ旦那」さんお笑いコンビによる爆笑ライブなど、多くのイベントや展示が行われました。また、被災地支援を目的とした「いわて宮古の海プリン」や「うまカレーうどん」をはじめ、模擬店も多数出展されました。

多くの方々にご来場いただき、大盛況の2日間でした。

## キャンパスを明るく彩る 秋のイベント満載!!

卒業生らを母校に招く  
交流イベントを開催

11月5日、寝屋川キャンパスで「ホームカミングデー」を開催しました。このイベントは卒業生を招き、恩師や同窓生と旧交を温めるとともに、母校の近況を肌で感じていただくことを目的として開催しています。

式典では、大石利光学長が卒業生の方々に挨拶し、参加への感謝の意を表すとともに「我々が大事にしてきた開学の精神と実学にさらに磨きを掛け、教職員一同改革を進めていきたい。ぜひ諸先輩方にもたくさんご意見を賜りたい」と述べました。

式典後は、本学の卒業生であり医療福祉工学部長の新川拓也教授が「教育現場から見た大阪電気通信大学」というテーマで講演を行いました。またOB教職員による近況報告では、石桁正士氏、藤崎紘久氏、新宅寛氏が懐かしい思い出話をはじめ、現在の趣味や取り組みについて話しました。

フィナーレには、J号館からグラウンドに向けて投影するプロジェクションマッピングが行われ、大学の懐かしい写真の数々や最先端の映像技術をお楽しみいただきました。

ホームカミングデー



11月6日、最先端の科学技術をわかりやすく紹介する、見る! 触れる! 学ぶ! 体験イベント「テクノフェアinねやがわ」を寝屋川キャンパス・駅前キャンパスで開催しました。

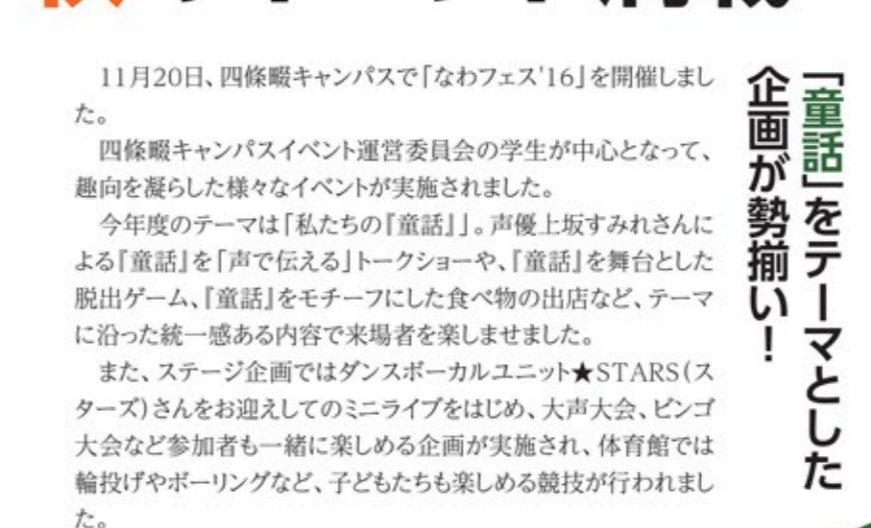
スタート前から総合受付には行列ができ、終日来場者が途絶えない盛況ぶりでした。

モノづくりのプログラムでは、子どもたちと保護者の方々が一緒に半田ごてを握り、家族揃って取り組む様子が見られました。Y号館中庭では毎年恒例の「卵落としコンテスト」も行われ、手製の機体に入れた卵が落とされるたびに大勢の来場者から歓声や拍手があがりました。また、工学部環境科学科と基礎理工学科の学生たちが推進する廃研究室&廃品再生プロジェクト(通称:カフェラボプロジェクト)は「身近なテクノロジーの歴史体験inカフェラボ」を出展。使われていなかった研究室を数ヶ月かけて癒し空間の「カフェ」へと改装し、古いコンピュータやおもちゃなどを展示しました。

約2500人の方々が訪れ、科学技術の面白さを感じていただくことができました。

テクノフェア  
in  
ねやがわ

今年も大人気!  
科学技術体験イベント



11月20日、四條畷キャンパスで「なわフェス'16」を開催しました。

四條畷キャンパスイベント運営委員会の学生が中心となって、趣向を凝らした様々なイベントが実施されました。

今年度のテーマは「私たちの『童話』」。声優上坂すみれさんによる「童話」を「声で伝える」トークショーや、「童話」を舞台とした脱出ゲーム、「童話」をモチーフにした食べ物の出店など、テーマに沿った統一感ある内容で来場者を楽しませました。

また、ステージ企画ではダンスポータルユニット★STARS(スターズ)さんをお迎えしてのミニライブをはじめ、大声大会、ピンゴ大会など参加者も一緒に楽しめる企画が実施され、体育館では輪投げやボーリングなど、子どもたちも楽しめる競技が行われました。

あいにくの雨模様となりましたが、卒業生や地域住民の皆様をはじめ、多くの方々にご来場いただきました。

「童話」をテーマとした  
企画が勢揃い!

なわフェス'16



「第52回大阪電通大チャリティーラリー 丹後半島ラリー2016」開催



8月27日、28日の2日間、京都府京丹後市において、本学体育会自動車部主催(大会会長:大石利光学長)の「第52回大阪電通大チャリティーラリー 丹後半島ラリー2016」が開催されました。28日に京丹後市役所で行われたセレモニアルスタートでは、大石大会会長のフラッグを合図に、次々とラリーカーがスタートを切りました。この丹後半島ラリーは、一般社団法人日本自動車連盟(JAF)公認国内競技で、JAF中部



近畿ラリー選手権、JMRC近畿SSラリーシリーズ、TOYOTA GAZOO Racingラリーチャレンジカップのタイトルとして開催されています。JAF中部近畿ラリー選手権・JMRC近畿SSラリーより42チーム、TOYOTA GAZOO Racing ラリーチャレンジカップより33チーム、計75チームが出場しました。

大石大会会長は閉会式の挨拶で、大会が無事終了したことに感謝の意を表すとともに、「このラリーは京丹後市の観光をアピールするための一つの手段として着実に地域に根付いていることを実感しています。今後もモータースポーツのファンを増やすとともに、京丹後市の観光の目玉となっていけるよう、皆さんとともに進めていきたい」と今後の展望について語りました。



産学連携講座「3D造形演習」開催

8月23日から9月2日の期間中、4回にわたり本学と大阪商工会議所との産学連携による講座「3D造形演習」が開催されました。この講座は、情報通信技術(ICT)を活用した地域のモノづくりの活性化、及び3D造形に関する人材育成を目的としており、3Dプリンタの活用を考える企業を対象とした社会人向けの講座です。

のチェックとメンテナンスのための柔軟運動や筋力トレーニングなどを紹介し、理学療法士を目指す理学療法学科の2年生4人が小柳教授の説明にあわせてトレーニングの実演を行いました。会場からは、身体の症状や改善方法について多くの質問があり、参加者の健康への関心の高さをうかがわれました。

この講座は、関西文化学術研究都市(けいはんな学研都市)に立地している7つの大学と国立国会図書館関西館との共同企画により開催され、「けいはんなから「知の発信」」をキーワー

「市民公開講座2016」で小柳教授が講演

8月26日から9月9日の期間中、関西文化学術研究都市7大学連携「市民公開講座2016」が国立国会図書館関西館大会議室にて開催され、9日に医療福祉工学部理学療法学科の小柳磨毅教授が「加齢に伴う身体変化~からだの変化に気づく介護予防運動の紹介~」というテーマで講演を行いました。

小柳教授は、日常で不自由に感じている身体

友電会主催「第39回平成28年度卒研室対抗ソフトボール大会」開催



8月30日、31日、寝屋川キャンパスにて本学友電会(同窓会組織)主催による「第39回平成28年度卒研室対抗ソフトボール大会」が開催されました。

18チーム(22研究室)計250人が参加し、トーナメント方式で試合が行われました。「出場研究室の教員は必ず選手として出場する」というルールに則り、学生だけでなく教員も一緒に、各研究室が一丸となって熱戦を繰り広げ、情報通信工学部情報工学科の早坂研究室(早坂昇講師)が見事優勝を収めました。

閉会・表彰式では、世話人代表の渡邊俊彦教授(工学部電気電子工学科)と友電会の福田武会長が学生らの健闘をたたえ、「次は卒業に向けて頑張ってください」と激励しました。



最終日の9月2日は、冒頭で大石利光学長が挨拶を行い、かつてCADを使用して設計していた自身の経験や、ますますデジタル化する昨今のモノづくりの現状について語りました。演習を終えた後は3D造形先端加工センターに移動し、3Dプリンタをはじめとした最先端の工作機械や造形物の見学を行いました。

4日間という短い期間ではありましたが、受講者の方々は非常に熱心に取り組まれ、3D造形についての理解を深めていただくことができました。

ドとし、一般市民の方々の関心の高い分野について、専門の講師が最先端の研究事例を分かりやすく解説するものです。



「2016日仏セミナー」開催



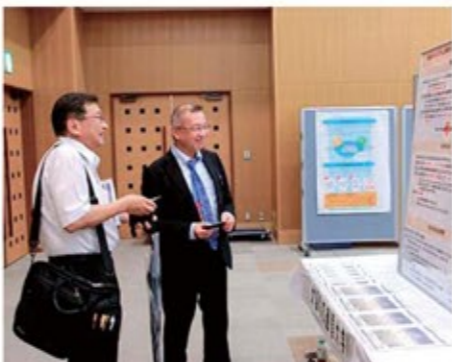
9月9日、10日の2日間、日本学術振興会炭素材料第117委員会主催、大阪電気通信大学

MOBIOの研究シーズ発表会で南角教授が発表

9月7日、13日にMOBIO産学連携オフィス連続企画テーマ別大学・高専合同研究シーズ発表会「情報通信・IoT・ICT編」が開催され、13日に総合情報学部情報学科の南角茂樹教授が発表を行いました。

この日は近畿の8大学の教授らによるシーズ発表会が行われ、南角教授は「割り込みスケジューラREMON」をテーマに講演しました。「REMON」は日米などの特許を取得している「Real-Time Embedded Monitor」の研究で、各種プロセッサへの適応や、組み込み製品でも需要が高まっているマルチコアへの対応などについて解説しました。

発表会の後、別室でシーズ展示会が行われ、南角教授は「組み込みシステム用割り込みスケジューラREMON」の解説パネルを前に、パソコンも使用しながら参加者の質問に答えるなど、交流を深めました。



解説パネルを前に参加者に解説する南角教授(右)

「機械工学フォーラム(産学連携公開講座)」開催

「日本発ものづくりとグローバル事業展開」をテーマにした産学連携公開講座「機械工学フォーラム」が9月21日に開講しました。この講座は企業の第一線で活躍されている技術者の方々に講師としてお招きし、多彩な講演をいただく貴重な機会として2011年より開催されています。

および炭素材料学会共催、本学エレクトロニクス基礎研究所協賛の「2016日仏セミナー」を駅前キャンパスで開催しました。

9日は、フランスより2件の招待講演と、日本より5件、計7件の依頼講演が行われ、また公募による一般講演の部では本学博士課程の学生も講演を行いました。セミナー後の意見交換会では、フランスからお招きした研究者の方々と日本の産学官の研究者を交えた活発な国際交流が行われ、その際、本学の成瀬淳理事長も挨拶しました。

10日に行われた本セミナーの委員らとフラン

四條畷市の「スッキリボディ教室2016」に協力

本学では四條畷市立保健センター主催の「スッキリボディ教室」に協力しています。今年度は9月14日から2017年3月18日の期間で開催されており、医療福祉工学部健康スポーツ科学科の武田ひとみ教授と太田暁美准教授が講義を行いました。

講義では、健康づくりのための正しい運動の知識や、運動と栄養の関わりなどをテーマに、簡単なストレッチやトレーニング、心拍数の測定方法などを紹介。また、健康スポーツ科学科の学生が参加者の身長・体重・筋肉量・内臓脂肪などを測定し、全員に歩数計を提供。全7回の講

義を通して、得られたデータを入力・分析し、「スッキリボディ」を目指す指標として役立てられます。なお、最終日の3月18日にも太田准教授の講義が予定されています。

計51人が参加した本セミナーは、様々な炭素材料について活発な議論が交わされ、情報交換や討論、さらに国際交流の場として、非常に有意義なものとなりました。参加した学生にとっても、多くの研究者と直接意見を交わすことができ、大変貴重な経験となりました。



義を通して、得られたデータを入力・分析し、「スッキリボディ」を目指す指標として役立てられます。なお、最終日の3月18日にも太田准教授の講義が予定されています。

「親子孫でたのしい仮説実験講座」開催



実験を楽しむ参加者の方々

9月17日、18日、「温度と分子運動」をテーマにした公開講座「親子孫でたのしい仮説実験講座」が、NPO法人「楽知ん研究所」の協力により寝屋川キャンパスで開催されました。

講座では工学部基礎理工学科客員教授の舟橋晴彦・京都大学国際高等教育院教授が

指導を行い、基礎理工学科と環境科学科の学生4人がアシスタントを務めました。

1日目は「熱の正体」、2日目は「蒸発と分子運動」をテーマに、分子が激しく動くことによって熱が生まれる現象を、針金を何度も折り曲げたり、火打ち石や摩擦熱で湯を沸かす実験などで確かめました。参加者の皆さんは家族で協力しながら楽しく実験に取り組み、科学を身近に感じていただくことができました。

「親子孫でたのしい仮説実験講座」は、大学近隣の地域の方々を中心に、親子孫の3世代を通して科学の楽しさを実感していただくことを目的とした理科実験講座で、本学の理科教職課程のアクティブ・ラーニングも兼ねて、基礎理工学科の教員によって企画運営されています。

初回の9月21日は全体説明が行われ、9月28日の第2回では、本学の名誉教授である石井徳章氏が「卒業研究の具体例と最新の研究成果」をテーマに講演を行いました。石井氏は卒業研究の重要性や、大学院へ進む利点などについて説明し、続いて自身が行った水門についての研究を、実際の写真や映像を交えながら解説しました。

この講座は2017年1月18日まで、全15回にわたり開催される予定です。



石井氏による講演の様子

「ラブリーフェスタ'16」に出展



10月10日、京阪本線古川橋駅周辺で「ふれ愛・にぎわい! ラブリーフェスタ'16」が開催され、本学は「くまもの缶バッジをつくろう!!」と「ラブリーマンたちと拳で闘え!」の2つのブースを出展し、総合情報学部デジタルゲーム学科などの学生計27人がスタッフを務めました。

「くまもの缶バッジをつくろう!!」は、参加者が写真を撮り、くまもと2ショットの画像をCG合成して缶バッジにするというもので、お昼前後には行列ができるほどの盛況でした。缶バッジは1枚100円で、この売上金は全て熊本地震の被災地支援として日本赤十字社を通じて寄付されます。

「ラブリーマンたちと拳で闘え!」は、会場を回遊するラブリーマンと子どもたちがジャンケンし、写真入り会員証を獲得するというもの。ラブリーマンは子どもたちだけでなく大人も一緒に記念撮影をリクエストするほど人気を集めていました。天気もよく、古川橋駅一帯は大賑わいで、学生らも大忙しの1日でした。

名誉教授称号記授与式

10月20日、寝屋川キャンパスで名誉教授称号記の授与式が行われ、大石利光学長から6人の先生方に称号記が授与されました。

大石学長と成瀬淳理事長は、今回受賞された先生方のこれまでの功績を称えとともに本学園の今後の方針について説明し、「その深い見識と外部からの視点をもって今後もぜひ本学園の発展にご協力いただきたい」と述べました。

「新天地 in NEYAGAWA 2016」でプロジェクションマッピングを上映

10月15日、寝屋川市の地域イベント「新天地 in NEYAGAWA 2016」が開催され、本学の産学官共同研究施設であるJIAMS(先端マルチメディア共同研究所)がプロジェクションマッピングを上映しました。

今年には寝屋川市立中央小学校創立50周年を記念し、同校の校舎の壁を使って上映が行われました。同校の子どもたちのアルバムをはじめ、色鮮やかな映像が次々と映し出され、その迫力ある映像に、集まった子どもたちやご家族、地域の方々からは感動の声が上がりました。



「新天地 in NEYAGAWA」は、学生たちがそのエネルギーと感性を活かして町の活性化に貢献したいという趣旨で開催されるもので、本イベントでのJIAMSによるプロジェクションマッピングの上映は5回目となります。

豪栄道関が駅前キャンパス来訪

10月16日、大相撲秋場所で初優勝した大関・豪栄道関の祝賀パレードが出身地・寝屋川市で開催され、パレード開催前に豪栄道関が本学駅前キャンパスを訪れました。

豪栄道関は大阪出身の力士として86年ぶりの優勝を果たし、このパレードでは2万人余りの人々が詰めかけ、豪栄道関の全勝優勝を祝福しました。

産学官連携の一環として寝屋川市との地域連携にも力を入れている本学では、「寝屋川市ふるさと大使」を務める豪栄道関を今後も是非

応援していきたいと考えており、本学を代表して大石利光学長が挨拶しました。



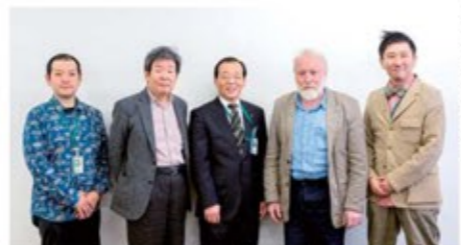
駅前キャンパスでの記念撮影



名誉教授(敬称略)

- 橋 邦英(元学長)
- 足立英郎(元工学部人間科学研究センター教授)
- 生田 孝(元工学部電気電子工学科教授)
- 西岡 昇(元工学部環境科学科教授)
- 森本正治(元医療福祉学部医療福祉工学科教授)
- 楓 大介(元総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科教授)

など計4作品。両監督は作品のエピソードや思いつきなど、2人が出会ったきっかけなども交えながら熱く語られました。また講義終了後に行われた懇親会では参加者と気さくに交流され、学生にメッセージを送る姿も見られました。



本学教員との記念撮影

11月2日、総合情報学部デジタルゲーム学科、JIAMS、株式会社モブコ主催による特別講座「ユーリー・ノルシュテイン×高畑勲」が開催されました。映像の詩人と呼ばれ、ロシアのアニメーション界を代表するユーリー・ノルシュテイン監督と、スタジオジブリ設立者の一人であり、数々の傑作を生み出している高畑勲監督が四條畷キャンパスに来学し、ユーリー監督による映像作品の上映や、作品解説などが行われました。

上映作品は「話の話」「霧の中のハリネズミ」

「OECU杯 ヒト型レスキューロボットコンテスト 2016」開催



11月6日、駅前キャンパスで「OECU杯 ヒト型レスキューロボットコンテスト 2016」(委員長:総合情報学部情報学科 升谷保博教授 主催:ヒト型レスキューロボットコンテスト実行委員会)

が開催され、学内外から19人が参加しました。ヒト型レスキューロボットコンテストは、ヒト型ロボットによる災害救助をテーマにしたロボットコンテストです。ヒト型ロボットを遠隔操作して、約4m×2mのフィールド内で「トンネルくぐり」「段差乗り越え」「ガレキ除去」「要救助者搬送」の4つのタスクを順に実行し、成功したタスクの数や、かかった時間の短さを競います。また、各タスクに対する審査員の評価も重視されます。

表彰式では升谷教授が「手軽に出られるコンテストをコンセプトにしているが、準備には時間

をかけ、自分なりの工夫を加えたひと味ちがうロボットで参加していただくと、より楽しいコンテストになると思う」と挨拶しました。

受賞結果 ※敬称略	
OECU杯	近藤隆路(個人)
搭載カメラ部門	1位 近藤隆路(個人)
	2位 廣瀬大起(産業技術短期大学)
	3位 岩崎豪真(九州工業大学)
目視部門	1位 佐川祐樹(大阪工業技術専門学校)
	2位 中村篤哉(大阪工業技術専門学校)
	3位 坪谷勇希(大阪工業大学ロボットプロジェクト)
技術賞	牛尾真野(大阪電気通信大学自由工房)
	中野裕也(大阪工業大学)
	吉山純司(産業技術短期大学)

熊本地震における復興支援活動

本学では被災地支援の取り組みの一環としてオリジナルポロシャツを制作し、11月14日、その売上協力金の一部(57,970円)を熊本県大阪事務所へ義援金として寄付しました。この取り組みは、2016年4月に発生した熊本地震により甚大な被害を受けた熊本県の被災地復興及び経済活性化の一助となることを目的としています。

デザインは、熊本県出身で総合情報学部デジタルゲーム学科のナガタタケシ准教授によって手掛けられ、「がんばろう くまもと OECU」とポロシャツの左肩に印字しました。本学では、このポロシャツをクールビズ対応の服装として着用することで、被災地への想いを忘れることなく、被災地の復興を応援しています。

自然災害という大きな壁は、ひとの営みを阻みます。阪神淡路大震災、東日本大震災、そして熊本地震、その壁を一生懸命乗り越え、人々が強くたくましく生き抜いていこうとする姿をこの目で見ました。熊本県は、水と緑に溢れ、阿蘇山という活火山と荘厳なカルデラを有する、素敵な所です。1日も早く、私の家族をはじめ、みんなが元気を取り戻して欲しいと思い、学生たちと共にこのポロシャツをデザインしました。



ナガタタケシ准教授

ゲームプロデューサー岡本吉起氏による特別講座「売れるゲームの作り方!」を開催

11月17日、株式会社でゲーCOO(最高執行責任者)の岡本吉起氏による特別講座「売れるゲームの作り方!」が四條畷キャンパスで開催されました。

岡本氏は株式会社カプコンで「ストリートファイター」シリーズなど様々なヒットゲームを世に送り出し、現在は株式会社でゲーで「モンスター



特別講座「売れるゲームの作り方!」

ストライク」などの人気ゲームを手がけています。岡本氏はまず始めに、自己紹介を交えながら仕事に対する考え方や自身の能力について述べ、続いて「モンスターストライク」の制作秘話やヒットの秘訣についてざっばらんに語り、学生らを驚かせました。後半はこの講座のテーマである「売れるゲームの作り方!」に沿って、万人に受け入れられるゲームづくりにおいて何が必要かを、過去の様々なヒット作を例に挙げながら説明されました。

普段自分たちがプレイしているゲームの開発者の声を生で聞くことができ、ゲーム業界を目指す学生たちにとって非常に面白く、かつ刺激的な講義となりました。

高大連携「硬式野球部交流DAY」

11月20日、本学体育会硬式野球部と大阪電気通信大学高等学校硬式野球部が四條畷キャンパスで交流試合を行いました。この交流試合は高大連携の一環行事として位置付けられ、大学と高校の部員たちが交流を深め、また大学の部員たちが技術指導を行うことにより社会人基礎力を育成することを目的としています。

試合は大学野球部が先輩としての意地を見せ勝利しましたが、高校が8回に2点返すという盛り上がりも見せました。「硬式野球部交流DAY」は今回で3回目を迎え、今後も実施していく予定です。

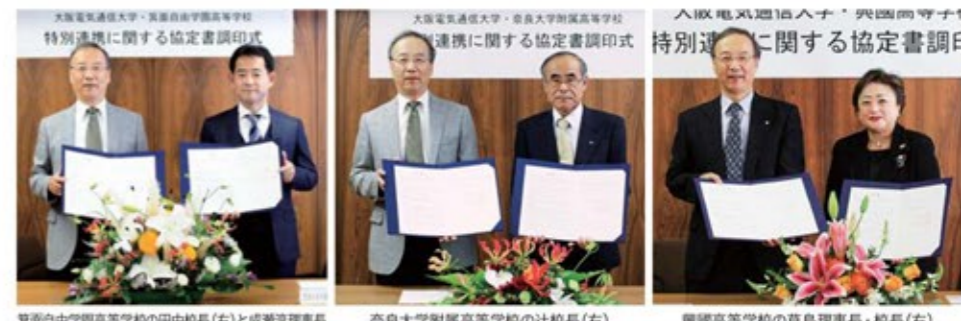


特別講義「ユーリー・ノルシュテイン×高畑勲」開催



3高校と特別連携締結

9月2日に箕面自由学園高等学校(大阪府)と、10月4日に奈良大学附属高等学校(奈良県)と、11月16日に興國高等学校(大阪府)と、高大連携に関する覚書を締結しました。この高大連携は、本学と各高等学校との友好関係に基づき、両校の間において教育交流活動を活発に推進するための特別な連携です。



箕面自由学園高等学校の田中校長(右)と成瀬淳理事長 奈良大学附属高等学校の辻校長(右) 興國高等学校の草島理事長・校長(右)

優秀ポスター賞を受賞



野村さんと森田准教授

日本分析化学会近畿支部第10回平成夏季セミナーで、野村洋佳さん(工学研究科修士課程先端理工学専攻森田研究室1年生)が優秀ポスター賞を受賞しました。発表テーマは「近赤外分光法を用いた天然酵母の発酵特性解析」で、この成果は野呂健太さん(同専攻齊藤研究室2年生)、齊藤安貴子准教授、森田成昭准教授を含めた4人の共同研究によるものです。この研究は、ラズベリーから採取した酵母を用いて、発酵している様子を近赤外分光法によりエタノール濃度の変化として分析するというもので、ラズベリー酵母2種と通常の酵母1種を比較してその発酵特性を解析しています。野村さんは今後について、「この研究を活かしてラズベリーのお酒を作りたい」と語ってくれました。

精密工学会北海道支部学術講演会で優秀プレゼンテーション賞を受賞



8月27日に北海道旭川市で開催された公益社団法人精密工学会の2016年度北海道支部学術講演会で、名越将大さん(工学研究科修士課程制御機械工学専攻宇田研究室2年生)が優秀プレゼンテーション賞を受賞しました。発表テーマは「窒化処理した精細金型用鋼のダイヤモンド切削加工-工具寿命の伸長と仕上げ面粗さの向上-」です。名越さんは「この受賞は先生のおかげです」と宇田豊教授に感謝の言葉を述べました。

精密工学会は、設計・生産システム、精密加工、メカトロニクスなど、「ものづくり」に関わるテーマを広く探求している学会で、その学術講演会では、学生・大学院生による優秀な発表に対し「優秀プレゼンテーション賞」が贈られます。

「ロボファイト17」で優勝

8月7日に大阪工業技術専門学校で開催された「ロボファイト17」において、自由工房ヒト型ロボットプロジェクトの関悠伍さん(工学部電気電子工学科2年生)が、SRC1.8kg以下級で優勝しました。



ロボファイトは関西最大級の二足歩行ロボット格闘競技会で、今回が17回目です。SRC1.8kg以下級は小型機専用の部門で、市販の機体や1.8kg以下の自作機を対象としており、今回のエントリーは56台です。関さんは自由工房で自作したオリジナルのロボット「ハードラック」で参加しました。ハードラックは、ヘラのような腕で相手を抱え上げるのが得意技で、昨

年は決勝戦で敗れ準優勝に終わりましたが、今年は5戦を勝ち抜いて優勝に輝きました。

また今回の大会には、自由工房ヒト型ロボットプロジェクトから4人の学生が参加しました。関さんのほかに、ロボットを始めて4カ月の森下英治さん(総合情報学部情報学科1年生)が、自作のロボット「Graphite」でSRC1.8kg以下級に参加し、4戦を勝ち上がりベスト4に入りました。



優勝した関さん(右から2人目)と参加した学生たち

計測自動制御学会 第33回センシングフォーラム 計測部門大会で優秀賞を受賞



「高級ハチミツブランドロゴ」コンテストで優秀賞を受賞

学生を対象としたデザインコンテスト「デザ魂」で募集された、「因島発! 高級ハチミツブランドロゴ」のコンテストで、田中利樹さん(総合情報

9月1日、2日に近畿大学和歌山キャンパスで開催された計測自動制御学会第33回センシングフォーラム計測部門大会で、中村祐一さん(工学研究科修士課程制御機械工学専攻入部研究室2年生)が計測部門・関西支部連携ポスターセッション(若手部門)優秀賞を受賞しました。

発表テーマは「天体観測のための補償光学システム開発 ~実時間性を考慮したシステムの効果~」。この研究は地上からの天体観測に必須となる補償光学装置内部のフィードバック制御器の性能向上のために、リアルタイム性能の向上とサンプリング動作の高速化を可能とする制御システムを独自に構築し、それにより補償光学装置の性能が格段に向上することを示したものです。

「センシングフォーラム」はセンシング技術をキーワードとし、SICE(公益社団法人 計測自動制御学会)の幅広い計測分野での技術交流・情報交換を行う場として開催されています。

学部デジタルアート・アニメーション学科※現デジタルゲーム学科倉地研究室3年生)が優秀賞を受賞しました。約4,000件を超える応募があり、優秀賞に選ばれたのは3作品(最優秀賞は該当なし)です。このコンテストは瀬戸内海に位置する尾道街道のひとつ、因島産の八朔とみかんの花の蜜だけで作られた大変貴重な「たるまん蜂蜜」のブランドロゴを考えるというもので、田中さんは蜂や蜂の巣をイメージさせるフォントに八朔の花や瀬戸内海の波をあしらった、高級感と明るさを兼ね備えたロゴを作成しました。

田中さんは、ゆくゆくはデザイン関係の仕事に就きたいとのことで、受賞について「苦労したのでとても嬉しかったし、非常に良い経験になった。今後もいろいろなコンテストに挑戦したい」と話してくれました。

「第13回ROBO-ONE Light」で第3位入賞・技術賞を受賞

9月24日に神奈川県立青少年センターで開催された「MISUMI presents第13回ROBO-ONE Light」において、自由工房ヒト型ロボットプロジェクトの関悠伍さん(工学部電気電子工学科2年生)が第3位に入賞し、さらに技術賞を受賞しました。

「ROBO-ONE Light」はヒト型ロボットの格闘競技の日本最大の大会ROBO-ONEの軽量機部門です。出場できるのはROBO-ONE委員会が公認する市販ロボットか1kg以下の自作ロボットで、今大会でエントリーしたのは76台です。関さんは自由工房で自作したオリジナルのロボット「OneShot」で参加し、厳しい重量制限の中、他の参加者がやっていない大技を実現する独特の機構を設計しました。

4戦を勝ち上がったOneShotは準決勝で惜しくも敗退しましたが、3位決定戦では見事勝利



大会に参加した学生たち

し、第3位となりました。この間、準々決勝では蹴り技、3位決定戦では投げ技を決めて会場を沸かせました。またロボットの高速移動とブレーキ性能、加えて複数の大技への挑戦が評価され、技術賞も受賞しました。

今大会では、ヒト型ロボットプロジェクトから関さんのほか3人の学生が参加し、三谷一輝さん(総合情報学部情報学科2年生)の「SmallFighter」は3戦を勝ち上がりベスト16に入りました。

コンピュータと教育研究会の第136回研究発表会で奨励賞を受賞



10月15日、16日に神奈川県で開催された情報処理学会コンピュータと教育研究会の第136回研究発表会で、本多佑希さん(総合情報学部情報学科兼宗研究室4年生)が奨励賞を受賞しました。発表テーマは「JavaScript版ドットルのタブレットでの利用可能性の提案」です。

コンピュータと教育研究会は、近年急速に拡大・普及しているコンピュータを利用した教育システムを、情報処理技術の立場から支援するという目的で設立され、工学部電子機械工学科の兼宗進教授と、総合情報学部情報学科の中野由章客員准教授が幹事を務めています。研究発表会では定期的に学生セッションが設けられ、そのセッションにおける優秀な発表に対して、学生奨励賞が授与されます。

小田康徳名誉教授が 大阪市市民表彰を受賞

11月11日、「第51回大阪市市民表彰」の表彰式が開催され、本学の小田康徳名誉教授が文化功労部門で表彰されました。

この受賞は、小田名誉教授が多年にわたり近代大阪史の研究に尽力し、明治前期大阪編年史の仮綱文など当該期の歴史研究の基礎資料を作成するとともに、近代大阪における公害問題の形成と展開過程を解明した著書などを、学術文化の振興と発展に貢献したことが評価されたものです。

表彰式後、小田名誉教授が来学され、受賞の感想や表彰式の様子などを報告しました。大石利光学長は素晴らしい功績を称え、2人は旧真田山陸軍墓地や水俣病関西訴訟など、小田名誉教授の現在の取り組みや研究についてしばし談話しました。

大阪市市民表彰は、大阪府が公益の増進、産業の振興、学術、文化の向上発展などに貢献し、顕著な功績のあった方、または市民の模範となるすぐれた善行のあった方を広く市民に顕彰することを目的に実施されています。



小田名誉教授(左)と大石学長

電気電子工学科の学生が「大阪府職業能力開発促進大会」で表彰

11月21日、大阪市中央公会堂で「平成28年度大阪府職業能力開発促進大会」が開催されました。この大会は大阪府により、優れた技能者や職業能力開発・技能検定の推進に功績のあった方々を称え、技能を尊重する社会を形成するために開催されています。

この日は、森内優貴さん(工学部電気電子工学科4年生)と2016年3月に同学科を卒業した松本健一さんが、平成27年度2級技能検定試験「シーケンス制御作業」において優秀な成績を収めたとして表彰されました。

森内さんは「このような賞をいただき大変うれいす。資格を取得した経験は就職活動にも

役立つと思います」と受賞の喜びを語ってくれました。また1級取得には実務経験が必要なことから、「就職したら1級に挑戦したいと思います」とさっそく上級資格への意気込みを見せました。

- 受賞内容
- 技能検定成績優秀者 大阪府職業能力開発協会会長賞 森内優貴さん(工学部電気電子工学科4年生)
  - 技能検定成績優秀者 大阪府知事賞 松本健一さん (工学部電気電子工学科2016年3月卒業)



受賞した森内さん

# 2部リーグ昇格!

念願の

関西女子学生バスケットボール3部リーグ準優勝  
入れ替え戦で勝利!



女子バスケットボール部がついに長年の目標を達成した。関西女子学生バスケットボール3部リーグで準優勝、その後の2・3部リーグ入れ替え戦を制し、念願の2部リーグ昇格を果たしたのだ。キャプテンの荒木あいかさんと副キャプテンの澁谷美月さん(いずれも医療福祉学部健康スポーツ科学科4年生)、そして市谷浩一郎監督(同学科准教授)に、昇格にいたるまでの経緯やその思いを語ってもらった。

ていた部員たちは、初戦に引きずられることなく今まで積み重ねた経験値を最大限に活かし、その後の試合で確実に白星を挙げていく。その結果、見事な巻き返しをはかって3部リーグ準優勝を収め、リーグ入れ替え戦への切符を手にした。

そして9月24日、2部リーグ11位のびわこ成蹊スポーツ大学との入れ替え戦。相手のディフェンスに押され7点差をつけられた状態で折り返しを迎えるが、ハーフタイムで気持ちでは絶対に負けないことを全員で約束。後半はいつもの調子を取り戻し、75-64で見事入れ替え戦を制した。

## ●監督が目指すチームとは

2部リーグ昇格は、市谷監督にとっては「8度目の正直」。自ら部員を集め、部を立ち上げたのが8年前。当時から優勝候補と言われ続けてきたが、「プライドの部分が弱かった」と監督は語る。「今年は『もう負けられない』というプライドが育まれ、そこに今までの経験値がついてきた。今回の結果は妥当なもの。学生たちを信じ、二人三脚でやってきた監督だからこそ言えることだろう。監督がめざすのは「全員が活躍できるチーム」。4年間ずっとベンチで応援だけ。ユニフォームを着る機会すらない。そんなチームにはしたくなかった。「全員がプレーできて、全員が活躍できる、そんなチームを作りたい」こんな監督だからこそ、学生は慕い、大学生活をクラブにかけてきたのだろう。

## ●次のステージへ

荒木さんと澁谷さんは「次は1部を目指して」

と後輩に向けて語る。人見知りという性格もあったがコミュニケーションをとることが得意ではなかった2人だが、後輩たちの悩みを聞いたり食事に誘ったりと、日頃からメンタル面も含めたサポートを欠かさなかった。その結果、いつのまにか他大学からも羨ましがられるほど仲のいいチームになっていた。そして今年、後輩たちに2部リーグという舞台を託して引退する。「一番いい形でパトタッチできた」2人は満足そうに言う。チームは今確実にいい方向へ向かっている。荒木さんの妹である荒木ありすさん(医療福祉学部健康スポーツ科学科2年生)を新キャプテンに据え、市谷監督とともに1部リーグを目指す女子バスケットボール部の活躍を、今後もぜひ期待したい。

「市谷先生だからここまでできた。本当に感謝しています」インタビュー後、こっそりやってきて市谷監督への思いを語ってくれた荒木さんと澁谷さん。「自分たちのことを本当に理解してくれて、同じ目線に立ってくれた。あんな先生ほかにはいない!」そう言わしめるほど、市谷監督の存在は部員たちにとって大きかったようだ。この大学に来て監督と出会えたこと。それもまた、部員たちにとってかけがえのない財産になるだろう。



取材を終えて



## ●2部リーグ昇格までの道のり

「4年間ずっと2部にいきなかった。やっと達成した」2部リーグ昇格を果たした今の気持ちを聞くと、荒木さん、澁谷さんは笑顔でそう答えた。今回の昇格は彼女らにとって「4度目の正直」だという。入部以来ずっと3部リーグの中で優勝候補として有力視されていたが、いつもあと一歩というところで届かなかった。

「今度こそ」そんな思いで挑んだ今年のリーグ戦。人数の少なさをゆえに窮地に陥った今までの経験も踏まえ、今年は10人の1年生を迎えた。一気に賑やかなチームになり、全員が2部リーグ昇格という目標に向かって日々意識を高め、メニューを工夫して練習に励んだ。

8月18日、ついに3部リーグ開幕。しかしチームはまさかの初戦敗退を喫する。この日の市谷監督は言葉もなかった。しかし目標意識を強く持つ

# 大阪電気通信大学の国際交流

## 夏期短期留学プログラムで韓国の湖西大学校へ!

8月20日から28日までの9日間、韓国の湖西大学校への短期留学プログラムに4人の学生が参加しました。

学生たちは、湖西大学校で韓国の文化について講義を受け、プレゼンを行い、代表的な日本の文化を紹介しました。また、景福宮や全州韓屋村といった観光名所の見学や、伝統演舞や化粧品づくりなどの体験を通じ、韓国の歴史や文化を肌で感じました。そして大学やホームステイ先では現地の学生たちと交流を深め、韓国ならではのグルメやショッピングなども楽しみました。

学生たちは様々な経験を通じて韓国の見聞を広め、多くの学びを得ることができました。



## 日本文化特別講座を開催

国際交流センターでは毎年新しく編入学した留学生を対象に日本文化講座を開催しています。10月1日は「華道」を、10月22日には「着物着付け」を開催し、中国・韓国・オランダからの協定校留学生が参加しました。



●華道  
嵯峨御流の岡本正甫先生より、華の歴史や華の心、そして華道が時代に合わせて移り変わる建築様式や暮らしと、どのように関わってきたかについて講義を受けました。続いて岡本先生の指導のもと、花器に好みの花を生け、完成後には自身の作品を紹介・披露しました。

●着物着付け  
着付けサークル「つむぎ会」講師の先生方より、浴衣や袴、振袖など様々な種類の着物を着付けてもらい、その後は着物の歴史や種類、季節毎の選び方などについての講義を受けました。また、着物を着た際の作法や風呂敷を使って様々なものを包む体験も行いました。



## アクティブ・ラーニングの場 ベリーベリープロジェクトの近況活動報告!

### 11月 ラズベリー砂栽培が成功

2015年11月から四條畷市の貸農園グリーンガーデンと協力して行ってきたラズベリー砂栽培が成功しました。砂栽培とは、土の代わりに砂と液体肥料で作物を育てる農法です。グリーンガーデンから砂栽培の区画、及び露地栽培の区画をお借りし、数種類のラズベリーの苗を植え付けを開始。咲いた花に一つ一つタグをつけてその



影響評価(生物活性試験)を進めています。今回の果実の分析結果は大学院生が今後の学会等で発表する予定です。

生長過程を記録し、研究を進めました。その結果、砂栽培に適した品種、露地で大きく育った品種が違うことが確認でき、今後の方向性が決定。現在たくさん収穫したラズベリーを使ってポリフェノール量分析やプロアントシアニン量分析、また生物に与える

齊藤准教授は、「ゆくゆくは低学年でも本格的な研究に取り組むことができ、学会などにも参加するような学術的なアクティブ・ラーニンググループとして、本学でしかない体験ができるものにしていきたい」と、今後の展望について話しています。

### OECU式アクティブラーニングが進化!! 「OECUサイエンス×ライフプロジェクト」



「ベリーベリープロジェクト」が寝屋川キャンパスで産声を上げて早2年。このたび、四條畷キャンパスでも健康を守るためのアクティブラーニングが始動! その名も「ハーバルケアプロジェクト」。ハーブやアロマセラピーが心と体に与える作用について研究している医療福祉学部健康スポーツ科学科の武田研究室(武田ひとみ教授)指導のもと、学内にハーブ園を作り、教育や研究に活用していくプロジェクトです。また、「ハーバルケアプロジェクト」と「ベリーベリープロジェクト」をまとめる名称として「OECUサイエンス×ライフプロジェクト」と呼ぶことが決定! 科学を表す「サイエンス」に、生命や生活、人生など様々な意味を包括する「ライフ」を掛け合わせた名称で、プロジェクトに参加している学生のアンケートをもとに決定しました。「OECUサイエンス×ライフプロジェクト」の名のもと、寝屋川・四條畷キャンパスの二つの健康に関するアクティブラーニングは、お互いに協力しながら様々な活動をしていきます。乞うご期待!!

## 人事異動

### 森幸治教授が副学長に就任



2016年10月1日付で、大阪電気通信大学の副学長に森幸治教授が就任しました。森教授は副学長として、本学の管理運営に関する学長の業務を補佐するとともに、本学の教育改革を推進していきます。

もり・こうじ 1981年大阪大学工学部機械工学科卒業。83年大阪大学大学院工学研究科前期課程機械工学専攻卒業、新日本製鉄株式会社入社。88年大阪大学工学部機械工学科助手。98年大阪電気通信大学工学部第1部知能機械工学科助教授。2001年工学部第1部知能機械工学科教授。07年工学部機械工学科教授(現在に至る)。10年4月~13年5月就職部長。11年日本実験力学学会会長。16年4月~教務部長。16年10月~教育開発推進センター長。工学博士。58歳。

### 異動(9月1日付)

職員	
大学事務局会計課長	長谷川靖倫
大学事務局会計課長補佐	前川 彩
四條畷事務部庶務会計課長(兼務)	石本一平

### 異動(10月1日付)

役職教員	
副学長(教育担当)	森 幸治
教育開発推進センター長	森 幸治

職員	
法人事務局総務部総務課係長	福山雄二
大学事務局長付(課長待遇)	溝口文子
教務部教育開発推進室長(兼務)	吉川 茂
四條畷事務部四條畷学務課係長	鯉谷貴久

### 異動(11月1日付)

役職教員	
メディアコミュニケーションセンター副センター長	上善恒雄



## イベント予告

学内・学外で開催される予定のイベント情報をお届けします。

## なわてん

2016年度の総合情報学部卒業生制作展「なわてん」が開催されます。「なわてん」は、総合情報学部デジタルアート・アニメーション学科第8期生、デジタルゲーム学科第11期生の卒業制作展ならびに、メディアコンピュータシステム学科の特別研究展として、今回で14回目の開催となります。

- 開催日 2017年1月28日(土)、29日(日)
- 会場 大阪電気通信大学 四條畷キャンパス



## 寄附者芳名録

2013年2月より開始しました、寄附金募集に対し、多数の方々からのお申込をいただきました。ご支援いただいた皆様のご協力に感謝し、ここにご芳名を掲載させていただきます。

## 【ご芳名者一覧】

- ①ご芳名は、2016年8月1日から2016年11月30日までに寄附のお申込をいただいた方(個人・法人)を掲載いたしました。
- ②ご芳名は、50音順・敬称略で掲載いたしました。

## 個人寄附

石川 智之	江川 久美子	嶋田光夫(故人)
辻本 周一	中村 文俊	野田 鐘一

合計 ¥9,068,707

(2013年2月から2016年11月30日まで)

## 2017年度一般入試日程

募集学部	試験種別	出願期間	試験日	合否発表
工学部 情報通信工学部 医療福祉工学部 総合情報学部 金融経済学部	前期A・B日程	インターネット : 1月5日(木)0:00~1月18日(水)20:00 郵送 : 1月5日(木)~1月18日(水)消印有効 窓口 : 1月19日(木)	A日程:1月31日(火) B日程:2月1日(水)	2月11日(土)
	後期	インターネット : 2月10日(金)0:00~2月21日(火)20:00 郵送 : 2月10日(金)~2月21日(火)消印有効 窓口 : 2月22日(水)	3月1日(水)	3月11日(土)
	センター方式前期	インターネット : 1月5日(木)0:00~1月31日(火)20:00 郵送 : 1月5日(木)~2月1日(水)必着	—	2月14日(火)
	センター方式後期	インターネット : 2月10日(金)0:00~2月27日(月)20:00 郵送 : 2月10日(金)~2月28日(火)必着	—	3月11日(土)

## 資料請求、お問い合わせ

〒572-8530 寝屋川市初町18-8  
大阪電気通信大学入試部  
TEL:072-813-7374 FAX:072-825-4589  
HP:<http://www.osakac.ac.jp/> E-mail:[nyushi@isc.osakac.ac.jp](mailto:nyushi@isc.osakac.ac.jp)

## 広報部からのお知らせ

本学は2018年4月、工学部に「建築学科」を、総合情報学部に「ゲーム&メディア学科」を新たに開設し、また総合情報学部デジタルゲーム学科を再編する予定です(※)。各学科の詳細については、右の本学Webサイトからご覧いただけます。  
※2017年1月現在、設置構想中であり、名称および計画内容は変更になる場合があります。



<http://www.osakac.ac.jp>

